

庁内調査結果

協働のまちづくりに関する意識調査

—磐田市職員—

1 アンケートの概要

(1) 目的

磐田市総合計画の基本方針「協働のまちづくりによる自治の実現」に向け、協働のまちづくりに対する現状や意見を把握し、推進施策へ反映するため。

(2) 調査項目

- ・協働のまちづくり」の意味を知っているか（認識）
- ・協働で事業を実施したことがあるか（参画）
- ・協働事業を実施したいと思うか（継続）
- ・協働を広めたいと思うか（推奨）

(3) 調査方法

- ・調査対象：磐田市正規職員
- ・実施方法：電子アンケート
- ・調査期間：平成 25 年 2 月 8 日から 2 月 27 日まで
- ・回収結果：有効回答数 799 件

回 収 率 84.7%※個人割当 PC

2 調査結果の見方

比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。

基数となる実数を N として掲載し、各グラフの比率は N を母数とした割合を示しています。

1 人の回答者が複数回答する設問では「複数回答」と表示していません。この場合、その合計が基数を上回ることがあります。

協働のまちづくり職員意識調査結果

(N=799)

【年齢】

区 分	～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代～
人数(人)	42	189	292	276
割合(%)	5.3	23.7	36.5	34.5

【性別】

区 分	人数(人)	割合(%)
男 性	549	68.7
女 性	250	31.3

【問1】協働のまちづくりの意味を知っていますか？（認識）

区 分	人数(人)	割合(%)	H24調査との比較
は い	713	89.2	「知っている」の割合が16.7%増加した。
いいえ	86	10.8	

協働の意味を知っている割合

区 分	人数(人)	割合(%)
～20歳代	30	71.4
30歳代	154	81.5
40歳代	273	93.5
50歳代～	256	92.8

区 分	人数(人)	割合(%)
男 性	499	90.9
女 性	214	85.6

【問2】協働の基本理念を知っていますか？

区 分	人数(人)	割合(%)
は い	417	52.2
いいえ	382	47.8

協働の基本理念を知っている割合

区 分	人数(人)	割合(%)
～20歳代	8	19.0
30歳代	77	40.7
40歳代	157	53.8
50歳代～	175	63.4

区 分	人数(人)	割合(%)
男 性	307	55.9
女 性	110	44.0

【問3】協働で事業を実施したことがありますか？

区分	人数(人)	割合(%)	H24調査との比較
はい	206	25.8	「実施したことがある」の割合が 9.0%増加した。
いいえ	593	74.2	

協働をしたことのある割合

区分	人数(人)	割合(%)
～20歳代	3	7.1
30歳代	43	22.8
40歳代	78	26.7
50歳代～	82	29.7

区分	人数(人)	割合(%)
男性	151	27.5
女性	55	22.0

【問3-1】協働で事業を実施したことがない理由（複数回答可）

理由	回答数	割合(%)	H24調査との比較
協働にふさわしい相手がいなかった	52	8.8	4.5%増加
協働にふさわしい事業がなかった	385	64.9	9.0%増加
協働する相手を探す方法がなかった	47	7.9	2.8%増加
協働の手法がわからなかった	145	24.5	4.0%減少
協働事業の要望がなかった	137	23.1	3.5%増加
事務量が增大すると危惧した	17	2.9	0.3%増加
その他	38	6.4	1.8%増加

協働事業を実施したことがある職員への設問（N=206）

【問4】今後も協働で事業を実施したいと思いますか？（継続）

区分	人数(人)	割合(%)	H24調査との比較
はい	199	96.6	「実施したいと思う」の割合が 4.0%増加した。
いいえ	7	3.4	

【「いいえ」の理由】

- ・個人情報の問題が大きい。
- ・最初は委託で、後に補助事業にしたと記憶していますが、この小学生キャンプは、たまたま青年会議所がやりたがっており、こちらの思惑と合致してうまくいきましたが、事業によってはなかなか難しいものもあるのではないかと考えます。
- ・新たな補助金等交付団体が増えるだけ
- ・協働を念頭に置いていないため

【問5】協働事業を他人に広めたいと思いますか？（推奨）

区分	人数（人）	割合（％）	H24 調査との比較
はい	133	64.6	「広めたいと思う」の割合が3.1%増加した。
いいえ	5	2.4	
わからない	68	33.0	

【「いいえ」の理由】

- ・調整（発表を含む）等に時間が必要で、通常業務に影響が出るため。
- ・一定の知識を必要とするため。

【問6】担当以外の業務で「協働で実施できる」と思うアイデアがありますか？

区分	人数（人）	割合（％）	H24 調査との比較
はい	66	32.0	「はい」の割合が6.5%減少した。
いいえ	140	68.0	

【「はい」の内容】

- ・磐田市は企業が多いため、CSRを行える財政的な力のある企業とのコラボレーション。（ヤマハ発動機など）
- ・行政が何かやろうとするとときに、金銭面、人工面等で大変だなと思えば、民間や市民に協力を求め、一緒にアイデアを出し合って実施すれば、いろいろなことがあるのではないのでしょうか。何でも協働できると思います。
- ・有害鳥獣の被害防止対策
- ・アスファルト陥没などの小修繕を自治会等へ依頼する。
- ・市民が利用可能なサービスについて、公共・民間問わず検索可能なデータベースの作成。こういうことがしたい、という要望に対し検索すると、対象のサービスが紹介されるもの。被災地などで、似たようなものが実際に運用されているようです。
- ・製薬会社とのタイアップ
- ・地域主体や住民主体、市民活動団体主体事業について、行政目的と方向性が一致していれば何らかの支援ができると考えます。岩田地区で実施しようとしている交通弱者のための移送支援は典型例だと思います。
- ・認知症対策を地域と協働で実施。
- ・平成25年度に、地域が主体となった公共交通事業を実施したいと考えている。地域と協働して作り上げていきたい。
- ・地域見守りネットワーク事業
- ・定型的な業務については、委託で実施できる。
- ・地域ボランティア運送
- ・スポーツイベントを体育協会や大学、総合型地域スポーツクラブと一緒に行う。
- ・文化財管理

- ・各種講演会やシンポジウムを市民活動団体や事業所等との共同開催とする。事業所へのアンケート、チラシの配布を行う場合、郵送ではなく、商工会議所や商工会を通じて配布してもらえば郵便料が節減できる。また、事業所への周知事項がある場合は、商工会議所や商工会の広報紙への掲載も可能である。
- ・現在のところ、企業（ポッカ・サッポロ）との協働に向けて検討中です。
- ・文化財課で行う展示会、見付学校や赤松家など観光としても使える文化施設の運営。
- ・6次産業に関する事業
- ・たくさんあると思います。
- ・文化財の管理・説明など
- ・芝生化（自治会・家庭）によるスポーツ振興
- ・発達支援や虐待予防のプログラムなどで考えていますが、質の高い団体が県内にはない。
- ・河川的环境活動
- ・水道施設見学を含めた水について学ぶ会
- ・協働の理念は理解しているつもりですが、産業部で行っている事業は、市民に運営の主役を務めてもらい、行政が色々な意味でバックアップしているものばかりです。お金でなく知恵と体力と一緒に取り組めるものは、すべて協働だと思います。
- ・地域の歴史に詳しい人や、これから歴史を勉強したいと思っている人は少なからずいる。情報の収集や展示会の手伝いなど、一緒に作業を行うことで、より関心が高められると思う。

【問7～10】協働の基本理念の理解度

「相互に目的を理解し、目的意識を共有する」 【平均 7.32】

理解度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数（人）	0	1	2	8	35	21	28	62	14	35
割合（％）	0.0	0.5	1.0	3.9	17.0	10.2	13.6	30.1	6.8	17.0

平成24年度と比較して、平均値 0.59 ポイント減少した

「相互に対等な立場で、自主性を尊重する」 【平均 6.76】

理解度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数（人）	1	2	6	11	43	27	36	45	14	21
割合（％）	0.5	1.0	2.9	5.3	20.9	13.1	17.5	21.8	6.8	10.2

平成24年度と比較して、平均値 1.01 ポイント減少した

「相互の特性及び役割を理解し、協力する」 【平均 7.18】

理解度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数（人）	0	0	1	5	35	33	40	47	22	23
割合（％）	0.0	0.0	0.5	2.4	17.0	16.0	19.4	22.8	10.7	11.2

平成24年度と比較して、平均値 0.52%減少した

「相互に必要な情報を提供し、共有する」 【平均 7.16】

理解度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数（人）	0	1	2	5	33	28	47	47	20	23
割合（％）	0.0	0.5	1.0	2.4	16.0	13.6	22.8	22.8	9.7	11.2

平成 24 年度と比較して、平均値 0.64%減少した

【問 11】 協働に関するご意見などがありましたら、ご記入ください。

- ・協働について理解して進めているというよりは、結果として協働であることも多いのではないかと思う。協働に関する啓発、推進を頑張ってください。
- ・平等な立場ではなかなかできず、どうしても行政に頼りがちになってしまう。
- ・協働は、これからの時代に大切になる。
- ・今の職場ではなかなか協働で実施できることが思い浮かびませんが、職員一人ひとりが前向きに考えていくべきことだと思います。
- ・協働することで、協働してくれている人たちが盛り上がると周りが活気づき、市が元気になるのではないのでしょうか。市からもっと市民に近づいていかなければいけないと思います。
- ・近年、協働といいながら関係団体へ丸投げして、職員が関与していない活動が増えているので、関係団体への配慮は今以上に必要だと思います。
- ・防災訓練、火災予防啓発など、自治会や事業所など各種団体と関係を密にすることはあっても、協働で事業を推進するという認識はあまり持っていない。手法についても、あまり理解できていないのが実情である。
- ・NPO 法人については、団体の自主的な活動自体を存続させることが最重要だと思います。市等の補助なく存続させるにはお金が必要です。現行の非営利という縛りの範囲に多少疑問を感じます。収益を上げて、そのプールされたお金を将来に使うことがあっても OK なのでは？狭き門では活動は広がらないと思います。
- ・協働の名のもとに行政の下請けをさせないこと。
- ・対象を広く考えて、市民や市民活動団体等と協力して同じ目的達成を協働で図ってきたい。
- ・自治会連合会との事業（河川クリーンアップ、海岸清掃）は協働事業になるのでしょうか。
- ・全職員が協働について認識し、より多くの活動ができるよう推進していく必要だと思います。協働事業に参加して、こんなことが良かったとか、こういったことが課題になったという具体例を職員に PR して、それに対する意見を出してもらおうとともに、協働について知ってもらうようにしてはどうかと思います。
- ・人事異動により現在の部署は 1 年目になり、協働について考える余裕がなかった。今後は、協働の研修にも参加した経験を活かし、単独で業務を進めていくことが困難な事案があれば、協働を検討しながら対応していきたいと思います。
- ・消防的視点からすると、一般的に夜間の福祉施設等の勤務人員が減少することから、有事に際し、付近の自治会、企業等の協力が必要かとも思います。事業者にお話しするのですが…。その前に関係課との連携が必要かとも思います。

- 健診（検診）受診率向上のために、企業や市民団体ともっともっと協力ができればありがたいです。
- 中東遠消防指令センターで導入した、聴覚障害者向けの緊急通報ツール「Web119」普及活動に、ボランティア団体や携帯電話事業者などが協力いただければ、更に普及推進ができるのではないかと考えています。
- 他の市で行われている協働事業を市民に知らせることも必要だと考えます。具体例を知ることにより、やってみようかという気持ちが出るのではないのでしょうか。
- 意見 このアンケートの回収率は低いと思われます。内容もきれいごとで集計されるのでは？
- まずは出来ることから市民や各団体・事業者等と一緒に取り組む姿勢が必要だと思います。そのためには、話し合いを充分にした中で、目的に向かって楽しく行えたら良いと思います。これからのまちづくりは、どの分野においても行政だけでなく市民協働で行うことが出来ます。
- 協働することが、ある市内の特定事業者に手中してしまうことは、行政が楽な反面、マンネリ化などよくない点も生んでしまうことがあります。必ず、参加者や周りの意見など広く聴き、適正な事業評価をしていくことが重要だと思います。
- 救急・消防業務で協働事業を実施できる機会が、今のところありません。
- 事業遂行の選択肢として常に、協働を意識していきたい。
- 職場・職員によって意識や取組に差がある。
- 行政単独で行うよりも良い事業成果が期待できる。行政の押しつけにならないよう、相手方が手を上げてきた事業のみを行う必要がある。そのためには協働事業の成功例を広く周知する必要がある。
- 市は協働で事業を行っていると思っても、相手はそうは思っていないケースがあると思います。
- 協働は結果ではなく手法であるため、多くの職員に体験してもらいたい。
- 協働は、相互の理解のもと進める必要がある。行政からの提案もいいが、協力団体のやる気が重要である。一方通行にならないような配慮が必要。団体に強制感を持たせないよう細心の注意が必要だと思う。
- 実施したいと思うが、なかなか着手できないのが現実です。保育園でも何か出来ることがあればやってみたいと思います。
- 市民活動団体と協働する際は、その団体の背景や思惑など、考慮すべき点が増えるので、立ち上げるのは大変なんだろうなと思っています。
- 「協働」の具体的な内容：何が「協働」か、どこまで範疇に含めて考えていいか、が分からない。
- 所属全体を通じて回答なので、余計なことを、といわれるのが怖くて、提案を述べる機会が与えられていない。
- 協働の理念・必要性・手法は理解できるが、受けて側の意識がこちらの期待どおりとなるか、事業を計画する段階で非常に不安がある。
- その場合、行政主導の業務になったり、継続性に無理が生じたりすることも危惧してしまう。

- 互いに、やってよかった、楽しい！と思えるような活動になるとよいと思う。
- 市の職員に共に働くという意識が薄いかもしれない。
- 行政は小さくならざるを得ないので、協働はさらに必要になりますが、経験がないと難しいと思います。行政、市民、事業所等が協働事業を重ねていくことで少しずつ定着していくと思います。
- 本来対等であるはずの協働が、行政側からの押し付けにならないよう、市民ニーズを的確に吸い上げる機会を増やしたり、アンテナを高く持った職員を増やすなど工夫が必要かと思う。
- 市民参加を促し、市民が主体性を持って参加でき実績を残すことができることは、市の活性化にはなくてはならないことと考えます。小さなコミュニティーからでもいいので進めていきたいと思います。小さな芽がいずれは大きな木となることは大いにありえます。ますます磐田市を活性化させていき、少しでも生活しやすい住みたい市にしていきたいと思います。
- 限られた予算の中で求められる市民サービスを提供するためには、必要なことだと思います。ただ、思いだけで賛同してくれる市民活動団体及び事業者では長続きしないと思います。いかにそれらの方々にメリットを与えてあげられるかが課題だと思います。
- 市民団体側の想いと市担当課の事情をすりあわせるのに、すごく時間がかかる。一つ一つすすめるごとに話あいが必要であった。結果としては良いイベントになったものの、協働の作業には、時間も手間もかかるという印象だった。
- 今までに実施してきた内容を情報提供をお願いします。また、他市での実施でもありましたら、お願いします。
- リーダーを養成することが肝要だと思う。
- ①めんどくさがらない。②現場を大切にする。とうまくいくことが多いのではないのでしょうか
- 協働は「手段」であり「目的」ではないので、協働の活用に当たっては、その「必要性」と「成果」が求められると思う。
- 事業を進める際に、常に頭の片隅に「協働」を意識しておくように心掛ければよいと思う。
- 良い意味で「市が楽をするため」、とやってやればよいのではないか。
- 提案に対して(相手方は多方面にわたると思うが)、行政がのるかのかのらないかは大変大きい影響があると思う。特に相手方の熱意が強いほど、その後の影響は大きい。行政というところは、断ること、慎重になることは得意とする部署である。実は、協働してやってみたら、大きな風を作ることもできるものを入口で遮断してしまいがちでは…。遮断するにしても、相手と理解しあえる関係を作ろうとする姿勢を見せたいなと思います。
- 相手先組織(の成熟度)によっては、「対等」が難しいように思う。事務処理等「委託」の形をとっていても市側の負担が大きい。
- 現在協働で事業を行う課ではないが、担当の事業にその可能性があれば実施していきたい。合併前は、各団体に独り立ちの指導を行っていた。

- 今の世の中、色々な考えの人や団体がいるので、情報発信をしっかりとすれば、賛同してくれる団体も多いのではないかと思います。単純に自治会にお願いするようなことでは、難しいと思われます。
- 市が提携している飲料水メーカーと 飲料用自動販売機に「ここは、何丁目何番地です」と表示していただければ、携帯電話からの119番通報は確実な災害点として確認できます。
- 本事業の目的をお互いが理解し、同じ方向性を持つことが最も重要である。方向性がズレればそれ以降の相互に対等・・・相互特性・・・情報提供・・・など全部がズレてくる。
- 協働していただける団体がよくわからない。
- 協働について詳しく知らなかったので、機会があれば理解を深めたいです。
- 相手とのやりとりの難しさや意識レベルの差を考えると、実施するまでに大変そうであるが、一度経験すれば、その後は取り組みやすくなるような気がする。
- 漠然とはわかるが、具体的にピンとこない。現在実施している事業を紹介していただきたい。
- 関心高い高校女子サッカー大会などは、登録ボランティアの活用だけでなく、ボランティアの公募を行ってみたらどうか。また、具体的な活動事業は思い浮かばないが、防災の分野は協働に適していると考えます。
- 必要性は理解しているつもりですが、現在の業務ではなかなか実施するのが難しいのではないかと思います。
- 協働の事業展開手法を個別相談してほしい。
- 協働と言いつつも、行政の関与は段階的に小さくし、いつかは民だけで実施すべきではないでしょうか。
- 広報広聴室でももっと情報収集をすべきかと思いますが、協働への取り組みを市民にもっと知ってもらうために、協働で行う事業または行った事業をもっと広報紙、ホームページ、報道、ラジオ等の媒体を利用してPRしていく方法を広報広聴室と連携してはどうか。
- 地域に草刈りやゴミ広いなどの作業を行う時に、飲み物や食材費（食料費）を活動団体に対して提供して、作業後のパーキングなどでコミュニティ形成のきっかけづくりをしていくことが、業務委託費よりも低予算で同等程度の作業が出来ると思われるが・・・。
- 行政からの押し付けととらえられないよう、協働の必要性、目的等に関する周知が必要かつ重要と思う。
- 新たな補助金等交付団体が増える ⇒補助金等確保のため事業の精査・企画・立案を協働先でなく、なぜか担当職員が行う。 ⇒担当と協働先の折衝を行うが、なぜか企画・立案良し悪しの最終決定は折衝先 ⇒イベント等の成功は協働先の手柄。失敗すれば市（担当者）への責任のなすりつけ ⇒何ともやりきれない『むなしさ』が残る 事業所（営利）は目的がはっきりしているからやりやすいが、市民活動団体（非営利）はやりにくい。都合が悪いと『非営利』が全面にでて『市の補助金が増えればできる。』で補助金の使途は会議費という名の『飲食代』。

協働事業を実施したことがない職員への設問（N=593）

【問4】機会があれば協働で事業を実施したいと思いませんか？

区分	人数（人）	割合（%）	H24 調査との比較
はい	516	87.0	「実施したいと思う」の割合が 10.4%増加した。
いいえ	77	13.0	

【「いいえ」の理由】

- ・磐田市の特色は企業が多いことなので、この特色を活かせば協働を実施できると思う。
- ・現在の担当業務からは、「機会があれば」は考えられない。また、異動により環境が変わるかもしれないが、その時々のお考えによるので、分からないというのが本音です。
- ・担当業務の性質上、協働にふさわしい事業がないため。
- ・現職場では協働にふさわしい事業がない中で、限られた職員数で、協働という手続きを踏む事業を展開するのは難しい。
- ・協働事業に馴染まない事務事業に長年従事してきたため、あまり魅力を感じない。
- ・最終的な責任の所在が不明確になる気がする。
- ・新年度の人員や体制での業務量で検討したい。
- ・職員一人ひとりが地元の自治会活動に地域住民として参加、協力していけばよいと思います。事業とする場合は、協働の担当課が、ニーズを把握し、担当課に協力を依頼する形が良いと思います。（担当課は日々の業務で余裕がないと思われるため。）
- ・事務量の増大や円滑化への不安。
- ・法律に基づき、国の基準に沿って事業を行なっているため、協働事業とするのは困難である。
- ・現在の業務では、協働のメリットがないため。
- ・今の時代は不況なので、協働事業を実施することよりも、地域の雇用を生み出すことを優先したいと思うため。
- ・目的がまだ理解できていない。
- ・指令センターの特殊性（個人情報流出懸念）
- ・消防が事業所と協働事業を推進できる業種であるのか、またその内容が浮かばない。
- ・何をどうやったらよいのかわからないから。
- ・どのような人がいいかわからない 事業がうまく進むか不明。

【問5】担当または担当以外の業務で「協働で実施できる」というアイデアがありますか？

区分	回答数	割合（%）	H24 調査との比較
はい	11	1.9	0.4%増加
考えるときがある	137	23.1	6.4%増加
あまり考えていない	260	43.8	8.2%増加
全く考えていない	34	5.7	18.7%減少
わからない	151	25.5	3.7%増加

【「はい」の内容】

- 市内葬祭業者と協力した遺体処理から火葬までのシュミレーション及び訓練（意見交換等含む）
- 実施済みかもしれないが、選挙の投開票事務
- スポーツ推進委員会と民間企業（労福協）と市で協働して事業を展開したい。
- 市民からの提案を待つのではなく、行政からも積極的に市民や企業に協働を呼びかけたり、協力を求めていくことで市民の意識や行政の姿勢を変えていくこと、市の積極的な姿勢をPR出来るような努力が必要かと思います。様々な事業を市民と行政とのビジョンの共有の場となるようにしていけたら良いのでは？

平成24年度 庁内における協働取組・事業一覧表（一部抜粋）

No.	取組・事業名	目的 (協働相手との共通の課題)	活動内容	担当課		役割
				協働相手		
1	河川クリーンアップ作戦	福田地区の河川美化	6月第1日曜日に太田川・仿僧川の150線南側から河口付近までの不燃ゴミを拾い、約1,600人が参加した。	福田支所市民生活課 ごみ対策課 自治会連合会福田支部 建設業組合（福田地区）	ゴミ袋の提供、活動のPR ゴミ袋の回収と運搬 ゴミ拾い ゴミ袋の回収と運搬	
2	交通安全啓発	交通安全意識の高揚、交通安全ルールやマナーの向上、交通事故の削減	交通安全連絡協議会と協力し、交通安全活動を実施した。 (交通安全運動初日の一斉街頭キャンペーン、交通安全教室、児童・生徒の通学時の交通安全指導)	自治防災課 警察署 交通安全連絡協議会 自治会、PTA	計画の策定、啓発物品の購入、自治会への啓発物品の貸与、交通安全教室の開催、参加者募集、広報 交通安全教室の開催 一斉街頭キャンペーンの実施 一斉街頭キャンペーンへの参加	
3	成人式開催	大人の仲間入りを果たした若者の前途を祝福し、励ますとともに、大人としての自覚を促す。	磐田、豊田、竜洋、福田、豊岡地区の各会場で成人式を開催した。磐田地区では中学生当時の写真を映写するスライドショー等、地区ごとに特色のある催しを行った。	市民活動推進課 実行委員会 中学生ボランティア	式典の企画・運営、受付、会場での誘導整理 式典の企画・運営、受付 受付、会場での誘導整理	
4	中学生から進める男女共同参画	教職員及び生徒のジェンダーバイアス（社会的・文化的差別）を取り除き、男女共同参画の意識を高める。	① 教職員向け男女共同参画のモデル授業の提案、ワークショップの開催 ② 生徒向け出前授業、ワークショップの開催	市民活動推進課 学校教育課 ウィミズネットいわた	運営補助、教育委員会・学校との連絡調整、出前授業希望校の取りまとめ 学校との連絡調整 事業の企画・運営、講師との連絡調整	

No.	取組・事業名	目的 (協働相手との共通の課題)	活動内容	担当課		役割
				協働相手		
5	カエルプロジェクト 「子どもの将来を 考える懇談会」	在日ブラジル人保護者にブラジルへ帰国した子ども達が日本語・ポルトガル語が分からず悩んでいる実情や直面している課題等を理解してもらう。	ブラジルで、子ども達の支援をしているサンパウロ大学の中川博士を講師に招き、外国籍の子どもが多い、多文化交流センターとこのとり東保育園の2会場で、保護者にブラジルへ帰った子ども達の現状や参加者からの教育相談に応じた。	市民活動推進課	運営補助、会場の調整、参加者の募集	
6	スポーツボランティアの育成	スポーツイベント等の運営への補助を通じた生きがいづくり及びイベント運営等でスタッフの人数を確保する。	スポーツによるまちづくりを行うためスポーツボランティアを組織化し、市内で行われる高校女子サッカーやジュビロマリソン等をボランティアとして運営を手伝った。	スポーツ振興室 スポーツのまちづくり 磐田ボランティアクラブ	事務局運営の補助、会場の提供、印刷の補助 クラブの事務局運営、スポーツイベントの本部事務、受付、会場整理、駐車場整理、救護等の運営、印刷	
7	まち美化 パートナー制度(環境)	道路や河川への不法投棄の抑止を図る。	事業活動で市内を走行する機会の多い事業所と協定を締結し、業務用車両に啓発用マクネットシートを貼付し走行してもらった。	環境課 事業所等約30社	啓発用ステッカーの作成・貸し出し、制度PR 車両への啓発用ステッカーの貼付、不法投棄ゴミの情報提供	
8	動物を愛護する写真展	動物を愛護する精神を高める。	帰る家を失った動物たちの現状を知らせる写真展を9月にららぽーと磐田で開催した。	環境課 いわた動物愛護協議会	展示場所の借用、会場設営、写真展の開催 写真展の準備・開催、来場者への説明	
9	出前子育て支援センターによる子育て支援	子育て不安の解消、地域の仲間作りの場を提供する。	市職員が、地域の公民館や子育てサロン等へ出向き、手遊び等で子どもと触れ合った。親の子育ての悩み相談を受けたり、地域の高齢者サロンと連携し世代間交流も行った。	こども課 児童委員、社会福祉協議会 高齢者サロン 子育てサロン	子育て家庭の交流の場の提供、子どもとの触れ合い、子育ての悩み相談、世代間交流 子どもとの触れ合い、子育ての悩み相談 子育て家庭の交流の場の提供、世代間交流 子育て家庭の交流の場の提供	

No.	取組・事業名	目的 (協働相手との共通の課題)	活動内容	担当課		役割
				協働相手		
10	公立児童館の運営	児童の福祉や健全育成を図る。	読み聞かせ等、児童向け各種イベントを開催した。	こども課 ボランティア団体		児童や保護者の集いの場の提供、子育て情報の提供、イベントの開催 読み聞かせ等の催しの提供、掃除
11	介護予防一般高齢者対象事業	地域の介護ボランティアを養成し、ボランティアとして地区サロン活動及び介護予防事業で活動してもらう。	元気な高齢者を対象として介護予防に関する知識の普及・啓発、介護予防や健康増進につながる事業等を実施した。 かくしゃくリーダー養成講座、サロンボランティア養成講座、認知症予防ファシリテーター養成講座を開催した。	高齢者福祉課 かくしゃくリーダー 認知症予防 ファシリテーター サロンボランティア		講座の運営、ボランティアの活動支援 高齢者サロンでのリハビリ指導、講座の補助 グループ活動支援、講座の補助 高齢者サロン運営、講座の補助
12	認知症講演会、脳の健康度テスト、認知症予防プログラム	認知症を予防する。	認知症予防の講演会を開催したり、市民に脳の健康度テストを受けてもらったりした。また、旅行・パソコン・料理の認知症予防のプログラムを実施した。	高齢者福祉課 見付地区社会福祉協議会		講師の手配、事業の開催 企画、周知、広報、運営の補助
13	認知症フォーラム in 磐田	市民に認知症を正しく理解してもらい、認知症の方やその家族を見守る応援者になってもらうことで、地域で見守る体制の構築を目指す。	講演『認知症を理解しよう』とシンポジウムからなるフォーラムを実施した。	高齢者福祉課 地域包括支援センター 磐田市医師会 磐田薬剤師会 製薬会社		会場確保、会場設営 全体の調整、企画、講演者の選定、チラシ作製、会場設営、シンポジウム運営 企画、講演者の選定、チラシ作製、会場設営、シンポジウム運営 費用負担
14	磐田市レンタサイクル事業	市と民間との連携により、磐田市の特徴である先進工業技術を広く発信し、「かららぼーと磐田」への来客者を市全域へ回遊させる。	三井不動産と市が協定書を結び、「かららぼーと磐田」への来客者に電動アシスト自転車を出した。	商工観光課 三井物産㈱ ヤマハ発動機㈱		レンタサイクルの管理運営 レンタサイクル施設整備 電動自転車の提供

No.	取組・事業名	目的 (協働相手との共通の課題)	活動内容	担当課		役割
				協働相手		
15	イメージキャラクター “しっぺい”で磐田市 を県内にPR	広告塔である「しっぺい」を 市民に知ってもらおう。 障がい者と健常者が一体と なってPRすることで、障がい 者への理解の促進をする。	イベント会場で「しっぺい」と 一緒に撮影した写真を、缶バッ ジに加工し、「しっぺい」と観 光情報をPRする。	商工観光課 NPO法人 サンサンいわた	会場確保、アンケート作成・集計、 回答者への景品提供 写真撮影、PR用缶バッジ作製、販 売、観光情報の提供、来場者のアン ケート依頼	
16	一菜一いいわた農業塾	市民に広く農業への関心、親 しみ、興味を持ってもらい、 農業に接する機会を提供によ り、農業への理解を深める。	農業初心者市民を対象に「農 業とは」、「野菜の栽培ポイン ト」等のカリキュラムを通して 知識と農業技術の習得をした。	農林水産課 遠州中央農協 中遠農林事務所、農林大 学、農林技術研究所	講座の開催、塾生募集、日程調整、 資機材の提供 畑での指導、畑の下準備 座学講師の派遣、情報提供、塾に関 するアドバイス	
17	地場産品からの協働に よる「たのしい食事・ 健康への食事」の食育 の推進	収穫体験等を通じて地産地消 を推進する。 市民が健康長寿を目指してい く。	農業生産者、製茶業者と連携 し、地場野菜の収穫・調理体験 や食卓での礼儀作法を教えるこ とにより、「食べることの大切 さ」を子ども達やその家族に伝 えた。また、特産品の海老芋等 を使用したお茶受け菓子や磐田 茶を味わい、地場農産物の良さ を学んだ。	農林水産課 NPO法人 こどもの森	講座の運営補助、生産者との連絡調 整、スタッフの派遣、講師の派遣、 地場農産物の紹介、参加者の募集 講座の企画、運営、参加者の募集	
18	トレッキング コース作り	都市と農村の交流推進を図る ためのトレッキングコースを 作る。	旧豊岡村に森林の持つ素晴しさ を情報発信するために、磐田ハ イキングクラブ、財産区、市民 ボランティア等のボランティア 活動によりトレッキングコース を整備した。	農林水産課 磐田ハイキングクラブ 敷地外四ヶ字財産区 市民ボランティアグループ	関係団体・ボランティアとの連絡調 整、ワークショップ、コース整備の 作業 コース整備の指導、助言、作業等 コース整備の助言、作業	
19	子どもが作る 弁当出前教室	子ども達の心と体が、健やか に育ち食への関心を深める食 育を行う。	自ら弁当を作る出前教室を大藤 小学校で6年生を対象に家庭科 授業の中で開催した。出前教室 は、10回にわたり、地場野菜の 紹介や買ひ物のポイントを教 え、弁当作りの実習を行った。	農林水産課 学校給食管理室 健康増進課 大藤小学校 いくいく・いわた	実施校との連絡調整、地場農産物の 現物・情報提供、広報PR 調理実習スタッフ派遣 家庭科授業の提供、農林水産課との 連絡調整 家庭科の授業の支援（調理実習、買 ひ物のポイント、地場農産物の紹 介、栄養の話など）、開催時のス タッフ派遣	

No.	取組・事業名	目的 (協働相手との共通の課題)	活動内容	担当課		役割
				協働相手		
20	まち美化パートナー制度(道路河川課)	道路、河川の美化及び保全等をする。	自治会や企業等が場所を決め、道路、排水路の清掃美化や草刈、道路の陥没等の簡易補修をボランティアで行った。	道路河川課 自治会、事業所等(118団体)	道具貸し出し、物資支給、ごみ、草、汚泥回収、活動の調整、広報活動、保険加入、協議会事務局運営、車両、オペレーター、交通整理者の派遣、交通規制	
21	河川愛護	河川の草刈りをする。	市内全域の河川の草刈りと浚渫を行い、草と汚泥を回収した。自治会単位で年に複数回、実施した。	道路河川課 自治会(224団体)	草と汚泥の回収、参加者の保険加入、報償金の支払い 河川の草刈り、浚渫	
22	道路舗装修繕原材料支給・除草用器材貸出	道路、河川の維持修繕を行う。	自治会からの要望により側溝蓋や砂利を支給したり、草刈機や蓋上げ機等の器材を貸し出しした。それを使用して蓋の設置や道路補修や草刈を行った。	道路河川課 自治会	側溝蓋や砂利の支給、草刈機や蓋上げ機等の器材の貸し出し 側溝蓋の設置、道路への砂利の敷均し、道路河川の草刈	
23	まち美化パートナー制度(公園)	公園、緑地等の美化及び保全等をする。	自治会や花の会等が場所を決め、公園の清掃美化や花壇の管理を行った。	都市計画課 自治会、花の会等	物品、用具等の支給、貸与、傷害保険の加入 公園の清掃美化、花壇の管理	
24	開庭楼跡地の公園整備	地域住民の憩いの場となるよう公園の整備や維持管理を行う。	池周辺の転落防止柵や法面設置、樹木の剪定、草刈等、公園整備を行った。	都市計画課 田町自治会(有志)	杭の支給、草刈後の片付け等 柵の整備、竹の伐採、草刈等	
25	文化財めぐり ウォークin長野	故郷を歩くことから、風や地形を感じながら、地域の歴史を体感する。	長野地区の前野と草崎周辺で坊僧川治水等の歴史を学ぶウォークを行った。一般市民約80名が、石碑や神社・仏閣等を巡った。	文化財課 長野地区社会福祉協議会 長野地区生きがい支援部会 長野地区保健委員会	コース選定、資料作成、参加者の募集、当日の運営 参加者の募集、参加者への記念品用意、イベントについての地域への周知、受付や交通規制等の当日の運営 参加者の募集、イベントについての地域への周知、受付や交通規制等の当日の運営	